

# 令和2年度 事業報告書



社会福祉法人

# 素心会

## 目次

1	法人	1
2	素心学院 障害者支援施設（生活介護・施設入所支援・短期入所）	11
3	素心デイセンター	17
	生活介護	17
	就労継続支援B型	19
4	地域支援センターそしん	24
	共同生活援助	24
	相談支援	27
	児童発達支援	29
	放課後等デイサービス	30
	居宅介護・移動支援	31
	自立支援協議会	32
	生活介護	34

## 1 法人

### (1) 法人の主な活動状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中で感染爆発となった。このウイルスは、人から人へ飛沫感染し、発症した場合には死に至るケースがあることから、世界中が深刻な状況に陥った。令和3年3月末現在、およそ280万人がこのウイルスで亡くなっている。

わが国では令和2年1月に最初の感染者が確認され、3月には一か月の新規感染者が1,992人となり、令和2年4月7日、国は緊急事態宣言を発令した。4月の新規感染者は12,187人、その後減少するものの7月から8月に第二波、11月からはそれまでをはるかに超える第三波となった。12月の新規感染者は86,926人、翌令和3年1月の新規感染者は150,000人を超えるまでになり、国は令和3年1月7日二度目の緊急事態宣言を発令した。最初の感染者から令和3年3月末までの累計は、475,243人の感染者と9,176人の死者となっている。(人数は厚生労働省データより)

素心会においても、令和2年度はこの不測かつ未知のウイルスへの対応が最重要事項となった。感染防止対策の徹底、緊急事態宣言に伴う通所事業の一時休業、情報収集、保健所との連携、感染防止備品の確保、行事・活動等の中止・見直し等密集と交流を避ける措置を最優先事項に切り替え実施した。そのような中、令和2年12月26日に素心学院において陽性者が発生した。直後の検査で合計6人の陽性が判明し、およそ1か月にわたり施設・寮を閉鎖し感染拡大を防止するための厳重な隔離対応を余儀なくされた。幸い、当初判明した6人から感染が拡大することはなく、また陽性者も回復し2月からは日常に戻ることができた。このように令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への警戒に明け暮れ、事業全般が停滞した一年となった。

### (2) 理事会及び評議員会の状況

ア 理事、監事、評議員	令和3年3月31日現在
理事長	萩原 勝己 素心会統括管理者
常務理事	高瀬 尚人 素心会法人事務局長
理事	柳田 直継 神社宮司
理事	望月 郁文 (社福) 理事長
理事	米山 勝彦 (社福) 理事長
理事	小林 倫 (社福) 理事・施設長
監事	古谷 俊幸 元銀行審議役
監事	南山 利久 民生委員・児童委員
評議員	坂田 泰二 会社代表取締役
評議員	土方 重治 会社役員
評議員	今野 朋子 元重症心身障害児施設副施設長
評議員	梓田 俊邦 (社福) 評議員
評議員	三箇 正子 元地域民生委員・児童委員並びに地域自立支援協議会会長
評議員	野谷 美恵子 前地域民生委員・児童委員会会長、現同委員
評議員	坂井 正志 (社福) 理事・総合施設長
評議員	木内 健太郎 地域社会福祉協議会 地域包括支援センター統括管理者

## イ 理事会の開催

第 189 回理事会 令和 2 年 6 月 2 日（火）

議案 第 1 号 令和元年度事業報告について

第 2 号 令和元年度決算報告について

監事監査の報告について

第 3 号 積立資産及び積立金への積立について

第 4 号 令和 2 年度第一次補正予算について

第 5 号 施設整備等特別積立資産の運用について

第 6 号 給与規程の一部改正について

第 7 号 非常勤職員給与規程の一部改正について

第 8 号 研修規則の改正

第 9 号 第 44 回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

報告事項 ①社会福祉充実残額について（令和元年度 残額無し）

②新型コロナウイルス感染症に係る現況報告について

③理事長及び常務理事の職務執行状況報告について

④その他

第 190 回理事会 令和 2 年 11 月 7 日（土）

議案 第 1 号 令和 2 年度第二次補正予算について

第 2 号 第 45 回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

報告事項 ①令和 2 年度事業中間報告について

②新型コロナウイルス感染症に係る現況報告について

③中期修繕計画の進捗状況について

③理事長及び常務理事の職務執行状況報告について

④その他

※令和 2 年 11 月 21 日に予定した第 45 回評議員会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止とした。（神奈川県福祉部地域福祉課法人監査グループ確認）

第 191 回理事会 令和 3 年 3 月 6 日（金）

議案 第 1 号 令和 3 年度事業計画について

第 2 号 令和 3 年度予算について

第 3 号 第 45 回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

## ウ 評議員会の開催

第 44 回評議員会 令和元年 6 月 27 日（木）

議案 第 1 号 令和元年度計算書類及び財産目録の承認について

報告事項 ①令和元年度事業報告について

②監事監査報告について

- ③社会福祉充実残額について(令和元年度 残額なし)
- ④積立資産及び積立金への積立について
- ⑤令和2年度第一次補正予算について
- ⑥施設整備等特別積立資産の運用について
- ⑦給与規程の一部改正について
- ⑧非常勤職員給与規程の一部改正について
- ⑨研修規則の改正
- ⑩新型コロナウイルス感染症に係る現況報告について

第45回評議員会 令和3年3月23日(火)

- 報告事項
- ①新型コロナウイルス感染症に係る現況報告について
  - ②令和3年度事業計画について
  - ③令和3年度予算について
  - ④役員改選に係る今後のスケジュールについて
  - ⑤その他

### (3) 監事監査

実施日 令和2年5月15日(木)

場所 素心学院会議室

監事 古谷 俊幸

南山 利久

監査事項 理事の業務の執行状況及び財産の状況

監査方法 書面監査

令和2年4月7日に発令された「新型コロナウイルス対応の特別措置法に基づく緊急事態宣言」が5月末日まで延長されたことを受け、三密(密閉空間、密集場所、密接場面)を避ける必要から神奈川県に確認し、監事両名の同意のもと書面による監査とした。

監査手順 ①事務局より監事全員に、監事監査資料・意見質問票・書面による監事監査実施の同意書を送付。

②意見・質問について、監事間で電話による調整・事務局から各監事への電話による説明・意見交換等。

③事務局より各監事へ、意見・質問に対する説明・意見交換等の記録を文書で送付。

④監事より事務局へ、監事監査報告書を送付。

監査結果 ①事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく表示しているものと認めます。

②理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

③計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に処理、表示しているものと認めます。

監査講評 理事長、常務理事の指導、監督のもとに業務は良好に執行されておりました。特に「利用者が必要とするサービスと社会福祉法人としての使命を迫及する」とのビジョンを掲げられておりますが事業報告書やパンフレット等の作成においてもしっかりとその決意のほどが感じられます。

これは全体を統括する統括管理室が司令塔となり、その機能をしっかりと果たしていることだと思えます。具体的に言えば、事業報告ダイジェストにおいては、取り組んできた事業の方向、事業の問題・課題の整理、問題・課題の改善、解決への道筋、方向等が職員、利用者にも見えるようになってきました。このような仕事の取り組みを一步一步確実に進めると、人材育成などと大上段に構えなくても日々の取り組みが立派な人材育成の場となると思えます。また、このことはこれからの法人運営にとって最も必要で強化していくべき方向であり、素心会 65 年余に培われた DNA「学びあい育ちあう風土」づくりの精神を持った職員育成にも大いに役立つものと考えます。

新型コロナウイルス感染症問題などを受け職員は心休まる日はないと思われませんが、職員にはメンタルヘルス対策や働き方改革等の工夫で「気の休まる職場づくり」にも十分配慮願えたらと思えます。

従来から書類作成においては「わかりやすいこと」が必要と述べてきましたが、今回の事業報告 digest や決算説明資料等は大変わかりやすくなっており評価するところです。また新型コロナウイルス感染症への対応を含む各種の安全・安心対策もきちんとなされていきました。今後も一歩進んだ前向きな対応を期待するところです。

#### (4) 県許認可・指導事務等

ア 定款変更認可  
なし

イ 指導監査  
なし

#### (5) 登記事項

ア 役員に関する事項

令和元年 7 月 5 日登記 理事長 萩原勝己 重任 令和元年 6 月 27 日

イ 資産総額の変更

令和 2 年 6 月 29 日登記 令和 2 年 3 月 31 日 変更 1,852,737,217 円  
(平成 31 年 3 月 31 日 変更 1,826,635,370 円)  
(平成 30 年 3 月 31 日 変更 1,836,239,797 円)

#### (6) 新型コロナウイルスに関する対応経過

別紙「新型コロナウイルスに関する対応経過（令和 2 年度まとめ）」のとおり

(7) 重点事項への取り組み

重点課題		実施（完了）事項	継続 終了
人材確保・育成、組織風土づくり	①多様な働き方の研究等 ②職員研修の見直し ③常勤職員の育成	①非常勤職員の勤務時間等弾力的対応 ②研修規則の改定 ③キャリアパス基準の作成・運用開始	継続 継続 継続
資金・財務	①予算管理の強化 ②稼働率の確保	①会計処理を会計事務所に委託 予算執行状況の月次管理を確実に実施 ②就労継続支援B型利用者増	継続 継続
土地・建物・設備等	①修繕及び業務等省力化計画の実行	①素心学院電話機交換、素心学院厨房機器の交換、パン作業機器の入れ替え等計画に基づき実施	継続
サービスの質	①地域生活支援拠点について ②事業継続計画に基づく取り組みと見直し ③感染症対策の強化 ④入所施設在り方検討会設置 ⑤グループホーム在り方検討設置 ⑥就労継続支援B型事業在り方検討設置	①新型コロナウイルス感染症に伴い未着手 ②防災備品の入れ替えを実施  ③「新型コロナウイルス対応」（素心会の対応マニュアル）の作成と徹底 ④新型コロナウイルス感染症に伴い中断 ⑤新型コロナウイルス感染症に伴い中断 ⑥パン工房完成、今後は検討に基づき販路を拡大していく	継続 継続  継続 継続 終了
ガバナンス、情報、ネットワーク	①法人資源及び後援会組織を活用した地域つながりの場づくり ②共感を生み出す広報活動	①新型コロナウイルス感染症に伴い中断  ②新型コロナウイルス感染症に伴い中断	継続  継続
社会福祉充実計画への取り組み（具体的な地域貢献事業への取り組み）		非該当	継続

(8) 委員会活動状況

名称	開催数	主な活動状況								
安全推進委員会 (利用者の安全に関する規則)	8	<p>1 利用者の転倒・転落・傷害・誤嚥飲・器物破損・加害行為・交通事故・行方不明等、事故の予防ならびに円滑かつ的確な事後処理を目的に活動しており、「ヒヤリ・ハット報告書」「事故報告書」等の作成・集計・分析を通し、情報を職員間で共有・注意喚起し、事故の再発防止に努めている。</p> <p>2 各種法人行事におけるリスクマネジメントの実施</p> <p>3 事故報告集計資料の様式見直しおよび作成・報告            事故件数 学院21件 デイセンター6件            支援センター10件 計37件</p> <p>4 日本知的障害者施設協会「リスクマネージャー養成研修」への職員派遣(中止)</p> <p>5 「ヒヤリ・ハット報告書」の集計・対応            報告件数 学院38件 デイセンター17件            支援センター0件 計55件</p> <p>6 見守りカメラ(学院)・ドライブレコーダー事故記録録映像の検証</p>								
広報委員会	5	<p>素心会が運営する事業全体に関する情報について、関係者・関係各機関をはじめ広く社会全般に提供し、障害者と福祉現場への理解と協力を求めることを目的に活動している。</p> <p>1 広報誌「そしん」編集、発行            67号 令和2年10月発行(800部・誌面をリニューアル)            68号 令和3年2月発行(900部)</p> <p>2 素心会ホームページ            ・トピックスの随時更新</p> <p>素心学院中華ランチ・寿司ランチ・クリスマス会のお知らせ。中央競馬馬主社会福祉財団よりいただいたマイクロバスの助成金、神奈川県自動車会議所より寄贈していただいた福祉車輛、自動車総連より寄贈していただいた送迎やパン移動販売などに使用する車輛のお礼など。</p>								
研修委員会 (素心会研修規則)	7	<p>1 職員の資質、専門性の向上を図るため、研修規則・研修要項に基づき次の研修を実施した。本年は新型コロナウイルス感染症に伴い会議の開催、研修会が予定通り実施できなかった。</p> <p>2 当年度の研修            (1) 基礎研修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害の特性と知的障害福祉の歴史</td> <td>令和2年6月22日</td> </tr> <tr> <td>倫理・人権</td> <td>令和2年7月17日</td> </tr> <tr> <td>記録・接遇</td> <td>令和2年12月4日</td> </tr> </tbody> </table>	内容	実施日	知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和2年6月22日	倫理・人権	令和2年7月17日	記録・接遇	令和2年12月4日
内容	実施日									
知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和2年6月22日									
倫理・人権	令和2年7月17日									
記録・接遇	令和2年12月4日									



介護技術	中止（感染症対策）
感染症とてんかん	令和 2 年 9 月 3 日
自閉症	令和 2 年 11 月 6 日
ダウン症・高齢化	中止（感染症対策）
リスクマネジメント	中止（感染症対策）
制度	中止（感染症対策）

(2) 伴走研修

- ①実施日 令和 2 年 7 月 9 日  
 場 所 素心学院会議室  
 参加者 新人常勤職員 3 人  
 内 容 働いてみて気づいたこと  
 リード 総務課長 笹森俊平 研修委員会
- ②実施日 令和 2 年 9 月 23 日  
 場 所 素心学院会議室  
 参加者 新人常勤職員 3 人  
 内 容 共有・共同・仲間の重要性  
 リード 総務課長 笹森俊平 研修委員会
- ③実施日 令和 3 年 3 月 30 日  
 場 所 素心学院会議室  
 参加者 新人常勤職員 3 人  
 内 容 仕事力  
 リード 総務課長 笹森俊平 研修委員会

(3) 実践研修

実施日 令和 2 年 8 月 31 日 18 時～20 時  
 場 所 素心学院地域交流室  
 参加者 素心会各拠点より選抜(全 10 人)での参加とし、参加者が  
 各拠点ごとに伝達する方法とした  
 助言者 二宮町福祉保険課 配島 氏  
 内 容 IT さんのより良い生活のために（素心学院）  
 構造化により個人の安定を図る（素心デイセンター）  
 質のいい暮らしを自分たちでつくる（地域支援センター  
 そしん）

(4) 基幹研修

- ①福祉職員としての自己分析アンケートの実施  
 実施日 令和 2 年 11 月  
 内 容 別添（Staff training Report2020）のとおり  
 集 計 別添（Staff training Report2020）のとおり
- ②次年度の育成プログラム作りを視野に入れたヒヤリング

		<p>テーマ 私たちの素心会 より地域に生きる法人となるために</p> <p>方法 ZOOM ミーティング</p> <p>実施日 第1回 令和3年2月17日 参加者 常勤職員8人 第2回 令和3年2月24日 参加者 常勤職員8人 第3回 令和3年3月15日</p> <p>参加者 第1回 初任及び中堅職員8人 第2回 リーダー層職員8人 第3回 課長・主幹職員8人</p> <p>内容 別添 (Staff training Report2020) のとおり</p> <p>(5) 外部研修</p> <p>事業所ごとに外部研修会への派遣を実施した。実績は各事業所の事業報告による。</p>
給食委員会	6	<p>1 検討事項</p> <p>委託業者である(株)一富士(旧日京クリエイト(株))と素心会とで、各拠点における利用者状況を踏まえ次の検討を実施した。</p> <p>①献立について</p> <p>②行事食の内容・実施方法について</p> <p>③刻み、アレルギー等食事の提供形態について</p> <p>④新型コロナウイルス感染防止対応について</p> <p>⑤衛星対応について</p> <p>⑥嗜好調査について</p> <p>⑦その他</p> <p>2 その他</p> <p>令和2年11月9日より地域支援センターそしんの調理業務全般を、(株)一富士に委託した</p>
衛生委員会 (労働安全衛生法、就業規則、衛生委員会規則)	会議2 回覧2	<p>この委員会は、職員の衛生管理に関し調査・研究・審議して衛生活動の推進・徹底を図ることを目的として、次の事業を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響で定期健康診断、AED研修会は予定したものの実施に至らなかった。</p> <p>・10月に平塚労働基準監督署にて委員会に関する調査を受けた。</p> <p>指摘事項は次のとおりである。</p> <p>①該当する事業所ごとに衛生管理者(他事業所との兼任不可)を選任すること</p> <p>②該当する事業所ごとに産業医を選任(他事業所との兼任可)すること</p> <p>③各事業所の衛生委員会の構成メンバーは管理者側と従事者側同数とすること</p> <p>④併せて、構成メンバー及び委員会での議題内容等含め委員会規則の</p>

		<p>見直しをすること          以上について、①の地域支援センターそしんの衛生管理者の選任については、新型コロナウイルスの状況を見ながら進めていく予定、その他は改善し平塚労働基準監督署に報告書を提出済みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年度からメンタルヘルス対策の一環として義務付けとなった「ストレスチェック」を全職員対象に実施した。</li> </ul> <p>対象者 144 人 回答者 133 人 回答率 92.4%</p> <table border="1" data-bbox="630 533 1465 808"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ストレスが高い</td> <td>15.0%</td> <td>8.9%</td> <td>14.5%</td> </tr> <tr> <td>やや高い</td> <td>21.8%</td> <td>21.5%</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>中程度</td> <td>28.6%</td> <td>32.6%</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>低い</td> <td>27.1%</td> <td>32.6%</td> <td>29.7%</td> </tr> <tr> <td>評価不能</td> <td>7.5%</td> <td>4.4%</td> <td>4.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会については、8月に新型コロナウイルス感染症関連で素心会「新型コロナウイルスマニュアル」に基づく経過報告、確認等を議題として開催したが、その他定期的な開催は出来ず、月次の議題内容に沿って各事業所と連絡を取りまとめたものを委員に供覧した。</li> <li>(社福) 福利厚生センター「ソウェルクラブ」に法人負担で全職員 (150 人) 加入し、福利厚生の充実を図った。</li> </ul>		令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	ストレスが高い	15.0%	8.9%	14.5%	やや高い	21.8%	21.5%	17.4%	中程度	28.6%	32.6%	34.1%	低い	27.1%	32.6%	29.7%	評価不能	7.5%	4.4%	4.3%
	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度																							
ストレスが高い	15.0%	8.9%	14.5%																							
やや高い	21.8%	21.5%	17.4%																							
中程度	28.6%	32.6%	34.1%																							
低い	27.1%	32.6%	29.7%																							
評価不能	7.5%	4.4%	4.3%																							
環境整備委員会	5	<p>毎月一回「環境整備の日」を設定し職員・利用者として学院内外の清掃を実施した。</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月31日(金) ツバメの巣除去 草刈り</li> <li>9月28日(月) よしず外し・換気扇掃除</li> <li>10月27日(火) ベランダ清掃</li> <li>11月27日(金) イルミネーション設置</li> <li>12月18日(金) 大掃除各寮カーテン・窓拭きその他活動場所等</li> </ul> <p>※次年度より各事業所ごとの報告とする</p>																								
芸術活動推進委員会	2	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため心創展は中止となり、外部展覧会への出展を中心に活動した。</p> <p>1 利用者活動としての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陶芸           <ul style="list-style-type: none"> <li>素心デイセンター 毎週木曜日 午前実施</li> <li>地域支援センター 不定期に実施</li> </ul> </li> <li>絵画等の制作           <ul style="list-style-type: none"> <li>素心学院 絵画：毎月2回 第1・3週 午後実施</li> <li>素心デイセンター 絵画：毎月2回</li> <li>地域支援センター 毎月1回実施</li> </ul> </li> </ul>																								

		<p>・書道 素心デイセンター 毎月1回 月曜日 午後実施 地域支援センター 行事として実施</p> <p>2 作品展への出展（応募）</p> <p>①アールブリュット作品展 主催 一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会 4月末日応募締切 出展10人 入選なし 応募の中の1点が主催者の2021カレンダーの表紙に採用</p> <p>②Art to You! 第6回東北障がい者芸術全国公募展 主催 公益社団法人 東北障がい者芸術支援機構 6月12日応募締切 出展6人 入選1人 会場で展示、カタログ掲載</p> <p>③大磯町ごみの分別・4R推進ポスター応募 主催 大磯町 9月30日応募締切 出展1人 入選なし</p> <p>④ビッグ幡 in 東大寺 主催 奈良県障害者大芸術祭実行委員会 10月31日応募締切 出展3人 入選1人 大きなタペストリーに織られ東大寺前に飾られる</p>
相互けん制委員会	6	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、次の通り可能な範囲の活動となった。</p> <p>1 職員行動規範の徹底と新規項目の検討 啓発ポスターの作成（毎月）</p> <p>2 法令順守と安全推進強化月間の取り組み 啓発ポスターの作成 各職員会議において呼びかけ</p> <p>3 「他人事で済ませてはいけない過ち」の改定作業</p>
防災対策委員会 (消防法令他)	5	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、次の通り可能な範囲の活動となった。</p> <p>送迎・外出時避難場所等対応マニュアルの更新 防災用備蓄品リストの確認、不足品等の補充 ライフライン確保マニュアルの検証</p>

## 2 素心学院

### (1) 概要

2020年度（令和2年度）は、4月からの緊急事態宣言を皮切りに、新型コロナウイルス感染症対策に、終始した一年であった。昨年2月からは、国・県の要請と社会情勢を鑑み、利用者・職員の安全安心を最優先に取り組んだが、12月下旬に利用者職員計6名の罹患者が発生、約一月間わたり施設内にて不自由な生活を余儀なくされた。幸いにして現場職員の尽力で、当初罹患者以外の感染拡大はなく、また罹患者についても、入院者は発生したものの全員無事完治、日常を取り戻すことができた。

また今年度も利用者の加齢・基礎疾患に伴う長期入院者の増加がさらに一層著しく、疾病による入院者・通院者対応に苦慮することとなった。疾病にともなう逝去者が2名となり、2名（男性1名女性1名）の新規入所者があったものの、定員充足にはいたらなかった。

### (2) 出身地別入所状況（令和3年3月31日 現在）

県 域	横 浜	川 崎	東京 他	計
59人	4人	3人	4人	70人

### (3) 年齢構成（令和3年3月31日 現在）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
男	1	1	11	10	12	5	1	0	41
女	1	2	8	3	7	7	1	0	29
計	2	3	19	13	19	12	2	0	70

平均年齢 57.2歳

### (4) 入退所状況

退所者	市町村	退所日	退所理由
93歳 女性	清瀬市	6月28日	胃がんにて逝去
84歳 女性	江戸川区	7月2日	S状結腸軸捻転にて逝去

入所者	市町村	入所日	入所以前の所在
43歳 女性	二宮町	6月22日	在宅
44歳 男性	平塚市	8月25日	在宅

### (5) 健康管理

2020年度（令和2年度）は新型コロナウイルス感染防止対応のため集団検診は未実施

毎月看護師が体重・血圧測定を実施、また各寮にて毎日定時に検温・血中酸素飽和度測定を実施した

(6) 主な入院

入院者	入院期間	疾病・治療内容	医療機関
S. Y	R2. 1. 30～6. 15	服薬調整	富士見台病院
N. Y	R2. 3. 5～4. 23	S状結腸切除	東海大学大磯病院
〃	R3. 3. 26～3. 27	便秘	東海大学大磯病院
S. K	R2. 4. 1～6. 23	胃がん・尿路感染（逝去）	東海大学大磯病院
T. Y	R2. 4. 9～4. 20	食思不振	東海大学大磯病院
〃	R2. 5. 1～5. 18	尿路感染	東海大学大磯病院
〃	R2. 5. 22～8. 31	胃ろう増設	東海大学大磯病院
T. K	R2. 7. 1～7. 2	S状結腸軸捻転（逝去）	東海大学大磯病院
W. Y	R2. 7. 9～7. 17	尿路感染	東海大学大磯病院
〃	R2. 8. 28～11. 9	肺炎・尿路感染	東海大学大磯病院
〃	R2. 11. 15～R3. 3. 2	誤嚥性肺炎・胃ろう増設	東海大学大磯病院
〃	R3. 3. 2～	転院	西湘病院
I. E	R2. 12. 27～12. 29	新型コロナ肺炎	県療養所（秦野精華）
Y. K	R2. 12. 29～R3. 1. 13	右人口膝関節周囲骨折	平塚市民病院
Y. F	R3. 1. 4～1. 18	新型コロナ肺炎	平塚市民病院
M. T	R3. 1. 7～1. 8	新型コロナ肺炎	東海大学大磯病院
〃	R3. 1. 8～1. 18	〃	東海大学病院
〃	R3. 1. 18～2. 4	〃	東海大学大磯病院
〃	R3. 2. 4～2. 9	〃	丹羽病院
K. Y	R3. 1. 8～1. 15	新型コロナ肺炎	湘南ヘルスイノベーションパーク
T. T	R3. 1. 22～	肺炎・肝硬変	東海大学大磯病院
I. A	R3. 3. 20～	肺炎・敗血症	東海大学大磯病院

(7) 日中活動の状況（新型コロナウイルス感染症対策のためグループ再編し適宜実施）

ア 活動種目

鈴の組立・ピーナッツの殻むき・木工・園芸・海岸清掃・施設内清掃・音楽・運動・レクリエーション・機能低下防止・法人墓地清掃

イ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した

ウ クラブ活動

月二回、「絵画クラブ」を設定し絵画作成を実施した

エ スポーツ活動

サッカー・ソフトボール・バレーボールを若年層向けに適宜実施した

(8) 防災訓練

新型コロナウイルス感染症対策のため実施せず

(9) ボランティア

新型コロナウイルス感染症対策のため施設への入館制限実施

(10) 月別利用実績数

施設入所 (定員 75 人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	278	310	300	310	312	330	341	330	341	341	308	339	3,840
5	390	403	390	403	399	390	403	390	401	354	356	403	4,682
6	1,335	1,370	1,358	1,390	1,385	1,350	1,395	1,357	1,394	1,380	1,232	1,353	16,299
合計	2,003	2,083	2,048	2,103	2,096	2,070	2,139	2,077	2,136	2,075	1,896	2,095	24,821

稼働率 90.6%

生活介護 (定員 75 人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	204	230	220	230	236	242	253	242	253	253	220	251	2,834
5	306	317	308	320	315	305	320	305	317	261	272	320	3,666
6	1,044	1,071	1,066	1,092	1,085	1,049	1,093	1,052	1,092	1,027	932	1,073	13,084
合計	1,554	1,618	1,594	1,642	1,636	1,596	1,666	1,599	1,666	1,541	1,424	1,644	19,176

稼働率 95.0%

(11) 短期入所実績 (定員 5 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2人
	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	17	31日
女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2人
	0	0	0	0	0	0	0	0	16	7	0	0	23日
計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	4人
	0	0	0	0	0	0	0	0	30	7	0	17	54日

稼働率 0.29%

(12) 行事等

新型コロナウイルス感染症対策のため、原則外部行事の参加および保護者会開催について見合わせた

月	学院	地域行事	保護者会	帰宅・帰院
4	1日新年度			
5				
6				
7	22日ランチデイ			
8				4日帰宅日 6日帰院日 (会議室窓越しに 面会実施)
9	25日夕涼み会			
10	30日秋の芸術祭			
11	27日ランチデイ			
12	15日クリスマス会 17日大掃除 18日もちつき			
1				
2				
3				



(13) 職員研修

新型コロナウイルス感染症対策のため原則外部研修の職員派遣は中止した

実施日	場所	参加者	内容
10月 5日	平塚市商工会議所	川崎	神奈川県相談支援従事者初任者研修
10月 6日	〃		
10月 27日	〃		
11月 18日	ココテラス湘南		
11月 19日	〃		
10月 27日	神奈川県社会福祉会館	池村	認定調査員研修
11月 8日	昭和大学	上田・内田・荘埜・矢野	喀痰吸引研修
11月 21日			

(14) 重点事項への取り組みについて

新型コロナウイルス感染症対策のため原則各委員会・会議等は延期とした

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
稼働率の維持	相談事業・素心デイセンターと連携し入所定員の確保に努めた。また短期入所利用者の入所意向聴取を実施した。	一定の入所利用者の確保は見たものの、高齢基礎疾患にもなう逝去・転院が相次ぎ、定員充足にはいたらなかった。	継続
医療的ケアの継続	事業所最高齢の女性利用者に胃ろうを実施した。また認定特定行為業務従事者研修に職員を派遣、資格取得者を増員した。	指導看護師の配置・安全委員会の設置・手技確認・研修への職員派遣等、定型が確立された。	終了 実施は継続
身体介護時の負担軽減	福祉機器の調査・研究を実施・国際福祉機器展への職員派遣を実施した。	あり方検討会・調整会議を中心に、利用者の現状に則した機器の導入について検討し、電動介護ベッド・低床ベッドの配置を実施したが特殊浴槽については躯体の工事が必要なこともあり、検討が進まなかった。	継続
男子寮の美化	勤務として清掃業務職員を配置、利用者日中活動とあわせて環境美化に努めた。またあらたにケルヒャー掃除機器を追加購入し、使用を開始した。	一定の成果をみたが、日々のことであり、意識の継続が必要。	継続

施設行事の見直し	一泊旅行を見直し、3グループ月別に日帰り旅行を計画、実施した。	施設行事・外出支援について、見直しが完了した。	終了 利用者状況により随時見直しは継続
日課の見直し	日中支援職員を中心に、活動のグループ編成の見直しを実施、10月より新たなグループで活動を開始した。	利用者の現状に則した日課の見直しが完了した。	終了 利用者状況により随時見直しは継続
感染症対策のさらなる徹底	感染症マニュアルの見直しを実施した。また感染症対策期間の備品購入について、計画的に実施し、不足品が無いように管理を徹底した。	今年度、季節性インフルエンザの罹患者をゼロにすることができたが、さらなる拡充(備品・対応等)が必要である。	継続
地域行事への積極的参加	大磯町・虫窪地区の地域行事について、参加利用者・職員数を大幅に増やし、例年のすべての行事に参加をした。	定例のすべての地域行事に参加することができた。	継続
未病者対応について	ダウン症検討会・あり方検討会において事例を挙げ検討した。(考え方の整理)	現利用者の高齢化に伴う対応に追われ、成果を出すことがかなわなかった。	継続

### 3 素心デイセンター

#### (1) 生活介護事業

##### ア 概要

新型コロナウイルス感染症の拡大や緊急事態宣言の発令により、日中活動、年間行事、送迎、稼働率など多岐にわたり影響を受けた。稼働率は、4月約50%、5月約30%であった。その後徐々に稼働率が上がり年度末は約85%となった。班ごとの小規模なイベント（金魚すくいやヨーヨーつり、グラウンドの芝生での輪投げ、ボール入れなどのゲーム）は行ったが、グループ外出、1泊旅行、バーベキュー大会、秋のレクリエーションなどの各種行事は中止となった。避難訓練は実施回数を減らし集合場所を少数に分けて密にならないように工夫して実施した。

生活1班（重度障害者支援）では、感染症防止対策で事業所間での文書配達は中止したが、園芸活動、グラウンド歩行、身体機能維持訓練は感染症防止対策を実施しながら行った。生活2班では地域のイベントなどでの自主製品の販売はイベント自体が中止になったこともあり行えなかった。例年行っている外部コンクールへの出展は継続して行った。生活3班では自立課題を中心に作業の提供を行なった。自立課題以外に、園芸活動や昼食時に使用するエプロンや布巾などの洗濯作業を取り入れたが一部の利用者しか参加できておらず課題を残している。

昨年度、素心学院入所のため素心デイセンターを退所された方が2名いた。令和3年度の新規利用者は2名であった。稼働率が下がった状態が継続しているため、新規利用者の増加は最重要課題である。

##### イ 月別利用者状況 <定員45人>

令和3年3月31日現在

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	47	37	60	62	52	61	66	59	66	59	57	68	694
4	79	43	137	144	117	131	139	141	147	122	114	136	1,450
5	224	136	326	376	308	353	405	365	378	334	353	410	3,968
6	126	83	183	175	137	162	194	220	230	188	212	257	2,167
計	476	299	706	757	614	707	804	785	821	703	736	871	8,297

\*新規通所者・・・2人 \*退所者・・・2人（学院入所2人）年平均稼働率 72.5%

##### ウ 市町村別利用者数

令和3年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	小田原市	寒川町	熱海市	計
男	10	5	13	3	3	1	1	36人
女	2	4	6	0	0	0	0	12人
計	12	9	19	3	3	1	1	48人

## エ 年齢構成

令和3年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	3	19	11	0	2	36人
女	0	3	4	5	0	0	12人
計	1	6	23	16	0	2	48人

平均年齢 37.1歳

## オ 送迎サービス利用状況

令和3年3月31日現在

コース名	車 輛	コース	乗車人数
大磯平塚コース	ワゴン車	日向岡＝高村団地＝山下団地＝西小磯	6人
大磯二宮コース	ワゴン車	赤坂台＝東小磯＝中里＝橘	4人
大磯コース	ワゴン車	白岩神社＝西小磯	3人
二宮コース	マイクロバス	山西＝押切＝小船＝百合ヶ丘＝石神台	7人
平塚コース	マイクロバス	平塚駅南口＝袖が浜＝大磯駅	7人
金目コース	マイクロバス	明石町＝追分＝岡崎＝広川	12人
合 計			39人

※感染症防止対策のために茅ヶ崎方面などに別便を出すことがあった

## カ 健康管理

項 目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
総合健康診断	中止			
歯科検診	中止			
インフルエンザ	11月30日	(希望者のみ1回接種)	34人	寒川病院
腫瘍マーカー	中止			

※日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告をした

## キ 日中活動の状況

## ①活動種目

牛乳パックの手漉き紙製品の製作、機織り、花壇の整備、事業所間文書配達、ペットボトルのラベルはがし、芸術活動、自立課題

## ②作業奨励金

毎月一律千円を支給した

③運動

近隣公園への歩行及びグラウンド歩行

④クラブ活動

内 容	備 考
絵画クラブ（第1・3・5月曜日午後）	クラブは、他の活動と平行して実施した。 講師または担当職員を中心に行った。 利用者の参加は希望制。
書道クラブ（第2または4月曜日午後）	
音楽Aクラブ（第2・4火曜日午後）	
パーカッションクラブ（毎週水曜日午後）	
陶芸クラブ（毎週木曜日午前）	
音楽Bクラブ（第3金曜日午後）	

※緊急事態宣言発令期間中は全て中止とした

⑤レクリエーション

外出・・・中止。 行事・・・中止

ク ボランティア

団体名	活動内容
ワークマン	草木の手入れ、土手の草刈り

(2) 就労継続支援B型事業

ア 概要

8月に素心学院から移転したパン工房は補修工事・パン窯の導入など整備は無事に終了した。看板商品の開発も無添加の生食パンなど積極的に行った。だが新型コロナウイルス感染症や緊急事態宣言の発令により、日中活動、年間行事、パンの外販などに影響が及んだ。大磯町役場の福祉ショップ「あおぼと」でのパン販売は緊急事態宣言発令時を除いて実施しており、新たなパン窯の導入により量産ができ月曜日から金曜日までが販売することができた。だが、二宮町町民センターのともしびショップ「なのはな」での販売や、虫窪地区文化祭・石神台マルシェ・横溝記念まつりへの出店は中止となった。施設外就労として実施していたこるゆぎ喜楽園の清掃作業は、一昨年度末より先方の感染症防止対策のため中止していたが、そのまま契約終了となった。洗濯作業は実施しているものの従来行っていた素心学院の各寮の居室への返却は感染症防止対策のために行っていない。

昨年度、新規利用者は3名であった。稼働率は4月約60%、5月約30%であったが年度末には約86%まで回復した。

## イ 月別利用者状況 &lt;定員15人&gt;

令和3年3月31日現在

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
延べ利用者数	194	148	271	245	205	235	251	263	277	240	233	296	2,858

年平均稼働率73.1%

## ウ 市町村別利用者数

令和3年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	相模原市	計
男	4	2	2	2	1	11人
女	2	1	1	0	0	4人
計	6	3	3	2	1	15人

## エ 年齢構成

令和3年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	1	2	2	3	2	11人
女	0	2	0	1	1	0	4人
計	1	3	2	3	4	2	15人

平均年齢 42.4歳

## オ 送迎サービス利用状況

令和3年3月31日 現在

コース名	車輛	コース	乗車数
平塚コース	マイクロバス	大磯=平塚駅=虹ヶ浜	6人
二宮コース	マイクロバス	山西=押切=小船=百合ヶ丘=石神台	3人
大平コース	ワゴン車	日向岡=山下団地=西小磯=つばきホーム	1人
合 計			10人

※感染症防止対策のために茅ヶ崎方面などに別便を出すことがあった

## カ 健康管理

項目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
総合健康診断	中止			
歯科検診	中止			
インフルエンザ	11月30日	(希望者のみ1回接種)	14人	寒川病院
腫瘍マーカー	中止			

\* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告をした

キ 日中活動の状況

①作業種目

作業内容	作業工賃
パン作業	326,250 円
洗濯作業	1,304,700 円
デイセンター食堂清掃作業	34,500 円
年間合計	1,665,450 円

\*平均作業工賃 一人 7,584 円/月

②レクリエーション

外出・・・中止。 行事・・・中止。

(3) 日中一時支援事業

感染症防止対策のために実施していない

(4) 生活介護事業・就労継続支援B型事業共通事項

感染症防止対策のために以下のように見直した

ア 行事等

月	デイセンター	保護者との関係
4		
5	平塚事業所合同説明会 中止 健康診断 中止 1泊旅行 中止 歯科検診 中止	個別面談(電話により実施)
6		個別面談(電話により実施)
7	七夕飾り 6月29日～7月10日 1泊旅行 中止	個別面談(電話により実施)
8	納涼祭 中止 夏期休暇 15日～19日	
9		
10	秋のレクリエーション 中止 ハロウィン(玄関装飾・ゲーム) 26日～30日	
11	1泊旅行 中止	
12	冬期休暇 31日～1月3日	
1	絵馬作り(玄関展示) 12日～22日	
2	実習生 9日	
3	お雛様作り(玄関展示) 2月23日～3月5日 実習生 8日～12日 実習生 15日～19日 実習生 22日～26日	

イ 職員研修

外部研修

月日	場所	参加者	研修内容
3月23日～24日	ヴェルク横須賀	中嶋	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修

法人内研修

実践研修、基礎研修、基幹研修、課長・主幹研修、伴走研修を実施

ウ 防災訓練

実施日	訓練内容
7月25日	緊急連絡網の訓練
8月12日	地震を想定した避難訓練
9月25日	火災を想定した避難訓練
10月26日	火災を想定した避難訓練

(5) 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
稼働率のアップ a 新規利用者の積極的な受け入れ b 福祉事業所合同説明会への参加 c 養護学校実習生の受け入れ	a・c 実習や見学など感染症 防止対策を徹底させて行っ た b 事業所説明会は中止とな った	生活介護2名、就労継 続支援B型3名新規 利用者を受け入れた が、計5名のうち3名 は当法人のグループ ホームの利用者であ った	a、b、cとも に継続する
グラウンドの有効活用 a 園芸活動の充実 b イベント等の積極的な利用 c 利用者の作業としての活用	12月にトレーラーハウスを 設置して利用者の静養室な どに活用した a 花壇の水やり等を行っ た b 小規模人数でのゲームや お茶会などは行っ たが年間 計画に掲げていたイベント は中止となった c 芝刈りや除草などを行っ た	作業内容の規模を大 きくして、また関わる 時間を長くして積極 的に行う必要がある	a、b、cと もに継続す る
就労継続支援B型事業 a パン作業室の移転と整備	a パン作業室の移転と整備 が完了した	感染症防止対策の影 響を考慮した上で販	a、b、cと もに継続す



<p>b パン作業の販路拡大と看板商品の開発</p> <p>c 工賃アップ</p>	<p>b 無添加の生食パンの開発を行った。感染症防止対策の影響があり販路拡大はできていない</p> <p>c 販路拡大ができなかったこともあり工賃のアップはできなかった</p>	<p>販路を拡大する方法を模索する必要がある</p>	<p>る</p>
<p>生活介護事業</p> <p>a 日中活動の充実</p> <p>b 自閉症支援の検討と実践</p>	<p>b 昼食時使用したエプロンの洗濯作業や花壇の水やりなどは行ったが十分な成果があったとはいえない</p>	<p>生産性のある作業の実施が必要である</p>	<p>a、bともに継続する</p>

#### 4 地域支援センターそしん

##### (1) 共同生活援助（さざんかホーム）

###### ア 概要

昭和 56 年から平成元年までに整備された当時の利用者像は一般企業等に就労し生活面においても比較的自立度の高い人たちであった。それから 30 年以上が経過し、利用者の高齢化による病弱者、重度者の増加が顕著である。障害福祉サービスでは重度者の暮らす場として入所施設があるが、制度的にも 65 歳以上の者は介護保険サービスへの移動を最優先にという市町村の意向が強まり、本人の状態像や介助度、支援体制とすり合わせたサービス利用からはどんどん遠くなっている現状がある。また、障害福祉サービスにおける住所地特例が介護保険では不適用となること等とも関係し、入所施設へも介護保険施設へも移動しにくい状況をも生みだしている。さざんかホームの高齢化、重度化は進み続けており新型コロナウイルス等の感染におけるリスクも顕著であるため予防・対応に追われた一年であった。

そのような中、令和 2 年度も以下の対応を重点的に行った

- ①利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制について
  - ・ 2 階居室から 1 階居室への移動 <歩行困難者への見守り及び移動支援の強化>
  - ・ 支援センターにおける入浴サービス
  - ・ 腎臓病食・カロリー制限食・ペースト食・アレルギー除去食への対応
  - ・ 看護師によるインスリン自己注射支援
  - ・ 新型コロナウイルス等感染防止の強化（罹患者はなし）\*通所先の一本化（法人内）
- ②防災対策
  - ・ 消防法改正への対応
  - ・ 専門業者による消防設備点検
- ③ホームスタッフの確保・育成、職員研修体制の確立
  - ・ ホームページ、広告等による積極的な募集（効果は得られていない）
  - ・ 報告・連絡・相談の徹底（引き継ぎ文書にて）スタッフ会議は実施できなかった。
- ④建物の老朽化改善について
  - ・ 高齢者への対応、65 歳問題等中期計画において根本的な方向性の確認、早急な整備を実現する（グループホームのあり方検討プロジェクトにおいても話し合っていく）

###### イ 月別利用実績（定員 29 人）

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計
2	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	58	62	732
3	147	152	142	155	153	149	155	150	152	151	145	155	1,806
4	150	151	150	124	116	120	124	120	122	118	116	124	1,535
5	150	155	150	186	186	180	186	180	155	155	145	155	1,983
6	231	214	240	248	241	240	217	210	248	248	232	248	2,817
計	738	734	742	775	758	749	744	720	739	734	696	744	8,873

ウ 出身別利用者状況

県域（政令市を除く）	横浜市	川崎市	東京都	計
18人	1人	1人	4人	24人

エ 年齢構成

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0人	5人	2人	5人	6人	0人	18人
女	0人	2人	1人	0人	2人	1人	6人

オ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	0人	2人	3人	3人	3人	7人	18人
女	0人	0人	1人	2人	2人	1人	6人

カ 健康

毎月の体重測定、毎日の検温、血圧測定を実施している。また、利用者の健康状態に応じてSP02の測定も実施し、疾患の早期発見、早期治療に努めている。新型コロナウイルス等感染症予防対策の徹底により罹患者は出さずに過ごすことができた。手指消毒・除菌水・マスク・空気清浄機はもちろんゴーグル・シールド・ガウン等整備し、検温や体調管理チェックシートの実施など管理体制も徹底、就労等での外との接触が多い利用者についてはPCR検査を実施している。健康診断については、感染症の関係から設定が難しく実施できていない。

キ 就労等の状況

令和3年3月31日現在

	性	年	事業所名	内容		性	年	事業所名	内容
1	男	69	素心デイセンター	洗濯・畑他	13	男	50	リネックス(有)	不燃物処理
2	男	75	地域支援センターそしん	創作活動等	14	男	53	プラスモア・素心デイ	洗濯・畑他
3	男	76	地域支援センターそしん	創作活動等	15	男	42	大磯エコセンター	不燃物処理
4	男	56	柳川乳業	配送仕分	16	男	49	素心デイセンター	洗濯
5	男	76	素心学院	環境整備	17	男	63	素心デイセンター	洗濯
6	男	50	素心デイセンター	洗濯等	18	男	69	悠悠苑	高齢デイ
7	男	75	素心学院	外注作業	19	女	58	素心学院	環境整備
8	男	72	地域支援センターそしん	創作活動等	20	女	86	さざれ石ケアセンター	高齢デイ
9	男	73	地域支援センターそしん	創作活動等	21	女	47	素心デイセンター	洗濯作業
10	男	50	(株)第一三共ハピネス	商品梱包	22	女	71	地域支援センターそしん	創作活動等
11	男	61	素心学院	外注作業	23	女	46	素心デイセンター	洗濯作業
12	男	61	素心学院	外注作業	24	女	71	地域支援センターそしん	創作活動等

ク 入院状況

性別	年齢	期間	病名	入院先
男	77	令和2年2月25日 ～令和2年2月27日	大腸内視鏡検査	東海大大磯病院

ケ 入退所状況

退所者	市町村	退所日	退所理由
77歳 男性	小田原市	9月28日	医療対応の有料老人ホームへ移動

コ 避難訓練

新型コロナウイルス感染症の関係よりグループホームにおける訓練・防災行政無線による訓練はできず各ホームにて防災備品・備蓄食料のチェック・補充を行い、緊急連絡・指示マニュアルの確認を行った。

サ 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規利用者の獲得	関係機関より情報収集	在籍利用者の状況・住環境を総合的に判断し欠員の補充には至っていない	継続
ホームスタッフの確保・育成	求人広告等での募集 生活支援員・世話人の研修	世話人の高齢化もあり採用するも退職数に追いつかない 研修は実施できず書面にて啓発	継続
利用者の高齢・重度化に伴う環境整備等および支援体制について	ADLに応じ住空間の設定 福祉用具の導入（低床ベッド）離床センサー・ナースコール等の設置 緊急連絡マニュアルの整備	今できる最大の配慮・手立ては行っている。（緊急度の優先順位において療養型への移行を進めることも含む）	継続
新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の徹底	感染予防マニュアルに基づき適切な対応の徹底 必要なPCR検査での精査	環境設定、衛生用品の充足、予防対応・手技の確立・徹底 （罹患者は出ていない）	継続

## (2) 相談支援

### ア 概要

相談支援事業は、引き続き大磯町基幹相談支援事業、二宮町基幹相談支援事業の受託と障害児者の特定相談支援、サービス等利用計画・障害支援区分認定調査を実施した。新型コロナウイルス感染拡大予防に際し、緊急事態宣言下における相談支援の実施の手法や情報の取り扱いなど未曾有の事態において、止まることのない、また更に牽引して起こるニーズに対し支援体制を模索した一年でもあった。

相談件数の増大、相談内容の複雑化の中で相談員数、対応時間、対応方法、社会資源の不足感は継続的に高まっている。地域に特定相談支援事業所が増えたものの、この状況下において地域事情の共有、制度における共通認識等話を交える場を持つ機会も遠のきが、基幹相談支援センターとしてのコントロールタワーの役割は十分果たせていないのが現実であった。ネットワーク形成もオンラインに留まり、顔の見える関係の構築やタイムリーな支援のつながりにおいても力を奪われた一年であった。このことに我々は引き続き量的、質的な対応力を高められるよう根本的な地域の相談支援体制の在り方、調整・連携について大磯町・二宮町の両町とも継続的に検討する場をもっている。

### イ 相談件数

		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
大磯町	障害者	368	511	134	1106	693	165	208	45
	障害児	109	49	41	593	68	417	13	31
	合計	477	560	175	1699	761	582	221	76
二宮町	障害者	369	574	146	1054	659	198	192	41
	障害児	114	129	104	619	46	401	12	35
	合計	483	703	250	1673	705	599	204	76
総計		960	1,263	425	3,372	1,466	1181	425	152

### ウ 支援内容

	福祉サービスの利用等	障害や病状の理解に関する	健康・医療に関する	不安の解消・情緒安定	保育・教育に関する	家族関係人間関係に関する	家計・経済に関する	生活技術に関する	就労に関する
大磯町	1891	368	482	783	501	399	108	84	269
二宮町	1832	419	528	758	485	386	117	96	271
合計	3,723	787	1010	1,541	986	785	225	180	540

	社会参加	権利擁護	その他	合計
大磯町	82	69	41	5077
二宮町	152	81	33	5158
合計	234	150	74	10,235

前年度合計 9,642

エ 支援方法

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支 援会議	関係機 関	その他	計
大磯町	304	183	96	3792	89	199	245	34	4,942
二宮町	315	187	101	3894	108	212	223	29	5,069
合 計	1,038	723	442	4,799	33	671	1,005	22	9,331

オ サービス等利用計画・障害支援区分認定調査

成人	計画数	モニタリング数	児童	計画数	モニタリング数
大磯町	101 件	109 件	大磯町	51 件	48 件
二宮町	110 件	119 件	二宮町	60 件	51 件
その他	3 件	11 件	その他	1 件	1 件
計	214 件	239 件	計	112 件	100 件
前年計	244 件	145 件	計	99 件	109 件

カ 障害支援区分認定調査

障害支援区分認定			
大磯町	33 件	二宮町	38 件
前年度	大磯町 44 件	二宮町	45 件

キ 関係機関との会議

地域自立支援協議会	圏域自立支援協議会	相談支援ネットワーク
精神保健ネットワーク会議	難病・特定疾患ケース検討会	重心関係機関連絡会
就労支援ネットワーク	職業リハビリテーション会議	母子保健メンタルヘルス会議
児童相談所連絡会議	特別支援教育連絡会議	教育委員会連携会議
要保護児童ケース会議	小児在宅ケア連絡会	小児神経学ケース会議
進路開拓会議	児童養護施設関係者会議	児童精神医学研究会
高次脳機能障害研究会	生活保護ケース検討会	神奈川県公安委員会警察署協議会
高齢・障害連携会議	地域リハビリテーション会議	地域コンサルテーション

\*新型コロナウイルス感染症対策 緊急事態宣言により外部会議は縮小もしくは中止となった

ク 重点事項への取り組み<相談>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
今後の地域における相談支援体制に関する検討	事例検討および関係者での情報共有の機会を定期的に設け両町担当者との会議も継続的に行う	定期的な意見交換や情報共有の機会は有効であり、課題については解決に向けシステムの構築等につながっている	継続
有資格者の確保および育成	実務経験等該当する人材については研修を受講 現従事者については更新の手続きを確実に進行	研修・更新手続きについては滞りなく行っているが新たに相談に従事する専門員の確保には至っていない	継続

(3) 児童発達支援（未就学）

ア 概要

年度初めにおいての2か月間は緊急事態宣言により週1曜日のわずかな利用に留まり、6月以降は定員である10名の名前が並ぶ日が増えるようになった。感染症拡大防止の観点から環境設定、プログラムの変更を余儀なくされ、日常的な予防対策においても繰り返し家庭や関係機関（併用の幼稚園・保育園）の理解・協力を仰ぎ進めた一年であった。

情緒の安定を図る個別支援計画の作成・実施においては保護者や関係者から一定の成果・評価を得ている。また、個別療育における作業療法士の導入も子ども自身・ご家族、関わる職員にも大きな手ごたえとなった。継続的に言葉や基本的な生活動作獲得へのニーズは高く、集団への適応や心身の健やかな成長へのアプローチが求められてきている中、感染症予防に配慮した支援体制や提供方法を工夫した。ご家庭へは取り組み状況を動画・オンライン・DVDに残し提供した。子どもへは紙芝居や手遊び歌などで感染予防や防災の意識づけなどを行った。

また、年齢によって発達度合いが顕著に異なる時期であることに加え、多様な障害児童を受け入れる為、グループ分け等により療育体制を整備し安全・安心な環境を設定している。重点的な取り組みとして掲げていた給食は、アレルギー対応や離乳食に及ぶため細心の注意を払い提供している。

イ 月別利用者状況 <定員10人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
72	32	191	195	168	176	195	176	187	186	170	220	1,968

稼働率 82%

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	平塚市	合計
714	1254	0	1,968

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男子	0	134	296	680	418	1528
女子	0	152	112	53	123	440
合計	81	206	681	650	250	1,968

オ 障害別状況

A 1	A 2	B 1	B 2	精神	身体	重心	未取得	合計
0	207	428	274	85	0	0	974	1,968

カ 重点事項への取り組み <児童発達>

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	平成31年4月より提供	幼児食としての確立・嗜好調査の未実施に課題が残る	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理・予防策の徹底	継続

(4) 放課後等デイサービス(小学1年から高校3年)

ア 概要

年度初めの2か月間は緊急事態宣言により利用を控える家庭が多く通常の3分の1の稼働に留まっている。放課後等デイサービスのあり方が問われる中、単にお預かりや遊びの時間だけにならないよう、生活力の向上及びソーシャルスキルトレーニングに力点をおいて取り組む目標を掲げながらもアセスメント・設定課題・プログラムの構築など取りこぼしたことも多かった。感染症拡大防止の観点から制限される活動も多々あり、買い物・調理等を通し手段的日常生活動作に関する機会は減ったのも事実である。環境設定、衛生管理を図ったうえで農作業・生活関連(清掃・洗濯・室内装飾など)作業には役割意識を促し継続させた。

放課後等デイサービスは、基本的に利用日数の制限かつ下校時間による制約が生じ、障害状況もまちまちの中での活動設定に難しさはあるが、成長段階で社会への出入りに立ち、本人もご家族も関わる職員も可能性を実感できるアイテムを模索し活用ツールの作成に取り組んでいる。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
160	121	325	403	293	372	383	369	376	342	359	394	3,897

稼働率 81%



ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	中井町	秦野市	平塚市	横浜市	合計
1,956	1,809	0	88	44	0	3,897

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	合計	合計
男子	143	44	371	0	78	320	956	3897
女子	56	455	123	65	90	100	889	
合計	199	499	494	65	168	420	1,845	
	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	合計	
男子	127	221	27	0	723	300	1,398	
女子	114	0	154	91	10	285	654	
合計	241	221	181	91	733	585	2,052	

オ 障害別状況

A1	A2	B1	B2	精神	身体	重心	合計
1063	726	948	736	90	437	217	4,217

※障害状況について

児童通所（児童発達支援・放課後等デイサービス）の障害状況は、四肢体幹機能不全、難治性てんかん、慢性肺疾患、低酸素脳症、白血病、視覚障害、聴覚障害、股関節変形症、レット症候群、水頭症、福山型筋ジストロフィー、プラダウィリー症候群、口蓋裂、双体性輸血症候群、脳腫瘍、心疾患（完全第血管転位・大動脈弁閉鎖不全）などの重複がある。

カ 重点事項への取り組み <放課後等デイサービス>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
放課後デイのあり方研究 ソーシャルスキルトレーニングの実施	役割意識やルール、約束などの決まり事を小集団でのグループワークにて行った	プログラムとしての積み上げに至らず断続的実施となったため根本的かつ計画的に継続をしていく	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理・予防策の徹底	継続

(5) 居宅介護・移動支援

ア 概要

居宅介護事業の利用については、介護保険での対応のニーズがほとんどであり、利用実績はありません。障害分野での移動支援事業については新型コロナウイルス感染拡大防止により、外

出・会食等の制限もあり余暇支援や社会参加の機会としての利用希望には応えることができない1年でした。サービス提供はグループホームの方々を中心に機能低下防止・健康維持の観点から散歩や周辺地域の散策に留め、自粛による体力・気力の低下の弊害を克服すべく繰り返し活動時間を重ねました。利用者にとっては楽しみ・特別感につながらず不消化な気持ちは否めませんが体を整え、次につながることを期待し歩みを続けました。もう一方の課題である職員の増員には至らず、コロナ禍において活動が制限され退職を余儀なくされた者もいた。ニーズに応じていくには、マンパワーの確保・育成・定着は継続的な課題である。

イ 居宅介護利用実績

家事援助の実績はありません。

ウ 移動支援利用実績 (合計 1,811件 7,246時間)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用 件数	161	164	149	156	158	153	150	158	140	135	147	140	1,811
利用 時間	637	645	591	621	620	605	603	614	583	535	595	597	7,246

前年度 1,168件 8,270.5時間

エ 重点事項への取り組み

<居宅介護・移動支援>

重点事項 (計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
職員の確保・育成に努めサービス提供体制を拡充・強化する業務マニュアルの作成	職員については、有資格者・経験者の求人を募る。サービス提供における配慮事項等(情報共有ベース)をマニュアル化する	マンツーマンの事業であるためニーズに応えきれず育成にもつながっていない 情報カードは作成済み	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理・予防策の徹底	継続

(6) 自立支援協議会

ア 概要

引き続き二宮町・大磯町障害者自立支援協議会事務局を受託した。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から協議会・部会ともに対面での会議を避け、事務局からの議案書を基にした書面開催が主であった。例年、両町の障害福祉計画を基に地域のニーズについて幅広い立場の関係者及び当事者と意見交換を図る目的で第三回部会は両町別の拡大部会として開催しており、大磯町拡大部会は対面による会議型式で11月に開催したが、それ以外の協議会と部会は全て書面による開催となった。また、年間活動計画では相談支援の展開を視野に入れた事例検討

会と知的障害の特性に対して理解を促進する内容の研修会の開催を予定していたが、いずれも感染症流行拡大時期と重なったため中止となった。

新型コロナウイルス感染症の流行拡大は、社会全体に未曾有の事態を引き起こしているが、地域内の各福祉事業所、関係機関にも運営上の様々な影響を与えている。こうした課題や不安についてもそれぞれの立場から書面にて報告を受け、共有を図った。

#### イ 協議会の開催と内容

	日時	内容
第1回（書面開催）	令和2年8月	1 会長の選任 2 令和元年度活動報告について 3 令和2年度活動計画について
第2回（書面開催）	令和3年3月	1 令和3年度活動計画(案)について

#### ウ 研修会・勉強会

	日時	内容
第1回		事例検討会。（新型コロナウイルス感染症流行拡大の状況を受け中止）
第2回		「知的障害の特性について」新型コロナウイルス感染症流行拡大の状況を受け中止

#### エ 部会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回部会 令和2年5月		新型コロナウイルス感染症流行拡大の為中止
第2回部会 令和2年8月	書面にて開催	新型コロナウイルス感染症対応から見えた課題について
第3回部会 (大磯町拡大部会) 令和2年11月27日	大磯町横溝千鶴子記念障害福祉センター	障害福祉計画と地域ニーズについて 参加者10名 事務局4名
第3回部会 (二宮町拡大部会) 令和3年1月	書面にて開催	障害福祉計画と地域ニーズについて
第4回部会 令和3年3月		新型コロナウイルス感染症流行拡大の為中止

(7) 生活介護

ア 概要

高齢者や重度重複障害者を中心に受け入れている生活介護では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い考え得る予防対策を実施し罹患者も出さず事故も無く安全に過ごすことができた。

しかし外出、一泊旅行、季節の行事等については中止せざる得ず、制限を強いる中楽しみを奪うことにもなってしまった。理学療法士の派遣事業についても新型コロナウイルス感染拡大防止により、ほとんど実施できず、リモートで指導を仰ぎながら環境設定を行い実践してきた。

活動や支援場面では密を避け、予防的対策が必須ではあるが、体に触れずに日常生活動作（入浴・排泄・食事・移動など）を介助することはあり得ず、自ら外敵を避けることも難しい方々の状況を受け止め、互いに守り守られ乗り越えていかなければならない現実に直面しています。

また、実習を通じて2名の新規利用者も入り着実に実績を重ねているところではありますが、意思決定支援、機能の維持・補完、楽しみの創出など小さな気づきを形にする支援にはまだ時間が掛かっています。今後、地域との接点をひろげ、放課後等デイサービスとも連動し、さらに利用者増につながる中で職員の確保・質の向上を念頭に発展させていける工夫と努力を続けている。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	45	36	46	45	39	44	48	41	44	53	39	51	531
6	209	144	250	261	224	221	246	221	231	272	205	259	2,743
計	254	180	296	306	263	265	294	262	275	325	244	310	3,274

稼働率68%

ウ 市町村別利用者数

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	伊勢原市	小田原市	湯河原町	その他	計
男	1	4	0	0	0	3	0	2	10人
女	2	2	0	0	0	3	0	2	9人
計	3	6	0	0	0	6	0	4	19人

エ 年齢構成

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	1	2	2	0	0	5	9人
女	1	5	1	0	0	2	8人
計	2	7	3	0	0	7	19人

オ 障害者支援区分

支援区分	3	4	5	6
契約利用者数	0	0	3	16

カ 送迎サービス利用状況

令和2年3月31日現在

コース名	車 輛	コース	乗車人数
A コース	リフト付ワゴン車	西小磯＝国府本郷＝富士見ヶ丘	5 人
B コース	リフト付ワゴン車	石神台＝国府本郷＝国府新宿	4 人
C コース	リフト付ワゴン車	中里団地	1 人
D コース	リフト付ワゴン車	山西	2 人
E コース	リフト付ワゴン車	国府新宿＝石神台	2 人
合 計			14 人

キ 健康管理

健康診断・腫瘍マーカーは新型コロナウイルス感染症拡大防止により未実施  
 日常の健康チェックは支援員が毎日定時にて体温・血圧・SpO2の測定を実施し、各家庭  
 (グループホーム担当職員含む) 看護師・課長に報告、共有をした

ク 日中活動の状況

園芸・・・支援センターを花で満たすためのプランター・花壇作りとその手入れ。  
 陶芸・・・食器や装飾品の製作。  
 創作・・・年中行事に関連した飾り作り、刺繍、編み物、絵画、紙漉き。  
 運動・・・毎週火・木曜日の午前、遊戯室にて実施。内容はラジオ体操、フィットネスマシー  
 ンやバランスボールを使用したエクササイズ、マット運動、ボーリング、玉入れなど  
 個別対応にて介助歩行、階段の昇り降り、マッサージやストレッチを実施。  
 清掃・・・毎週金曜日の午後に活動室内の掃除機かけ、台拭き、床磨き

ケ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した。

コ 入浴

福祉用具や手動式入浴リフトを使用した個浴と介護浴槽による入浴の実施。ケガ等により入浴  
 制限のある方のシャワー浴や清拭も必要に応じて行なった。月曜日から金曜日まで毎日午前と午  
 後に分けて、1日平均6名が入浴。定期利用されている方は13名。  
 医療的ケアや処置のある方については、入浴場面に看護師を配置し実施している。  
 グループホームにおいて入浴が困難となった利用者については、状態に合わせた形態で実施。

サ レクリエーション

運動レク・・・ 天気の良い日は外に飛び出し公園などの散歩を楽しむ。  
 嗜好品作り・・・ 嗜好品を作り楽しんだ (コーヒー豆をミルで挽きコーヒーを飲む)  
 調理実習・・・ 記念日にケーキを作り食す(デコレートし自分たちで作る楽しさを味わう)  
 外 出・・・ 公園散策等を実施。(個別・グループ外出はできなかった)

シ 行事・・・クリスマス会・餅つきなどを実施。誕生日の祝いも行う  
 (お花見・節句・納涼祭・プール活動・バーベキュー・旅行・成人式は中止)

ス 保護者との関係

\*個別面談は書面にて実施 \*保護者懇談会・給食試食会は検討するも未実施

セ 重点事項への取り組み <居宅介護・移動支援>

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	安全で安心な食事提供 楽しみを感じる食事	配慮食としての確立・嗜好調査の未実施に課題が残る	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・ 関係機関と連絡を密に体調管理・予 防策の徹底	継続

(8) 職員研修

日時	場所	参加者	内容
令和2年 7/22 8/27 11/20 12/16	久里浜医療センター	鈴木	医療観察法(CPA会議)
令和2年 10月 14.15日他	海老名市民活動センター及びZOOM	山口	相談支援従事者養成初任者研修
令和2年 10月 27日	神奈川県総合医療会館	八木	障害支援区分認定支援員研修
令和2年 10/26 11/1 12/6	こども医療センター	鈴木	医療的ケア児等コーディネーター研修
令和2年 11/5 11/24 11/25	海老名ビナレッジ	山口	相談支援従事者養成初任者研修
令和2年 11月 7日	ZOOM研修	枇杷橋 八木	重症心身障害児者の支援の基本 と実践(食を考える)
令和2年 11月 20日	高相合同庁舎	湊	精神障害者支援体制加算研修
令和2年 12/6 12/13 12/20	藤仁館医療福祉カレッジ	小沢	強度行動障害基礎・応用研修
令和3年 3月 18日他	ココテラス湘南及びZOOM	千葉	児童発達支援管理責任者 基礎研修

\*法人内研修 <基礎研修・基幹研修・主幹課長研修>

(9) 地域への協力(会議室・遊戯室・カフェの貸し出し)

利用団隊	利用日	内容	場所	利用人数
二宮農園プロジェクト (二宮農園・子ども農園)	2回/月 日曜日	自然栽培	駐車場	15~20人/ 回(車8台)
グリーンエネルギー湘南(太陽光)	不定期	会議・活動	カフェ 駐車場	15人/回

\*びあの会・みんなのカフェ・認知症カフェについては中止